

第3章 産業廃棄物発生量等の比較

第1節 前回調査結果との比較

1 発生・排出状況の比較

本調査はアンケート調査等によって得られた標本の産業廃棄物量と集計活動量指標から排出原単位を算出し、その原単位に、業種別の調査対象全体における調査当該年度の活動量指標を掛け合わせて算出した推計量である。（p12参照）前回調査と比較して、その排出原単位と母集団活動量指標が大幅に増加している（特に製造業）ことから、発生量、排出量等が前回調査と比較して大幅に増加している。（表3-1-1）

平成20年度の発生量、排出量を前回調査（平成16年度実績）と種類別に比較すると、発生量は3,047千t（40%）、排出量は2,694千t（38%）増加している。

発生量の種類別にみると、特に汚泥（1,636千t）、がれき類（458千t）、ガラスくず等（334千t）の増加が著しくなっている。（図3-1-2）

なお、グラフは発生量を比較したものである。

表3-1-1 排出原単位や活動量指標の比較

	排出原単位係数			活動量指標			備考
	H16	H20	伸び率	H16	H20	伸び率	H20発生量(%)
建設業	1.849	2.689	145.4%	74,513	73,586	98.8%	27.0%
製造業	0.295	0.412	139.8%	880,777	1,143,458	129.8%	62.3%
電気・水道業	-	-	-	-	-	-	10.0%
運輸業	0.013	0.011	82.9%	38,924	39,425	101.3%	0.1%
卸・小売業	0.033	0.059	179.4%	155,186	63,939	41.2%	0.5%
サービス業	0.044	0.016	36.7%	11,158	58,303	522.5%	0.1%
医療業	0.023	0.028	120.4%	21,444	21,254	99.1%	0.1%

(千t/年)	H16		H20		増減	
	発生量	排出量	発生量	排出量	発生量	排出量
合計	4,543	4,320	7,590	7,014	3,047	2,694
燃え殻	26	26	32	32	6	6
汚泥	2,128	2,126	3,765	3,753	1,636	1,628
廃油	129	112	176	120	47	8
廃酸	37	28	112	83	75	55
廃アルカリ	102	99	231	225	129	126
廃プラスチック類	191	174	161	133	-30	-41
紙くず	10	10	9	6	-1	-4
木くず	69	64	184	183	116	119
繊維くず	1	1	1	1	-0	-0
動・植物性残さ	102	99	32	27	-71	-73
ゴムくず	3	3	1	1	-2	-2
金属くず	232	76	473	41	241	-35
ガラスくず等	133	133	468	464	334	331
鉱さい	88	86	117	117	29	32
がれき類	1,240	1,232	1,698	1,698	458	466
ばいじん	44	44	92	92	48	48
その他廃棄物	6	6	38	37	32	31

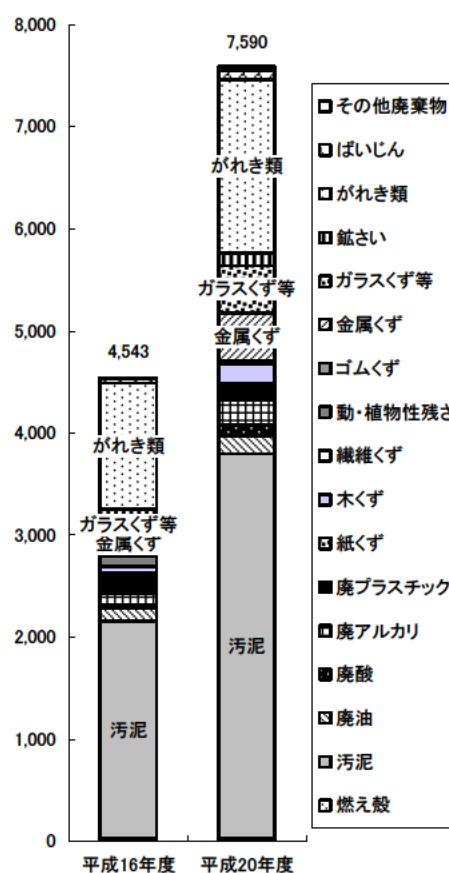


図3-1-2 種類別の発生量・排出量の比較

業種別の発生量を比較すると、建設業（609千t）や製造業（2,237千t）、電気・水道業（195千t）で大きく増加している。（図3-1-3）

(千t/年)	H16		H20		増減	
	発生量	排出量	発生量	排出量	発生量	排出量
合計	4,543	4,320	7,590	7,014	3,047	2,694
建設業	1,440	1,431	2,049	2,034	609	603
製造業	2,493	2,283	4,730	4,171	2,237	1,888
電気・水道業	565	565	760	760	195	195
運輸業	4	3	5	4	1	1
卸・小売業	33	31	36	34	3	3
サービス業	3	2	5	5	2	3
医療業	5	5	6	6	1	1

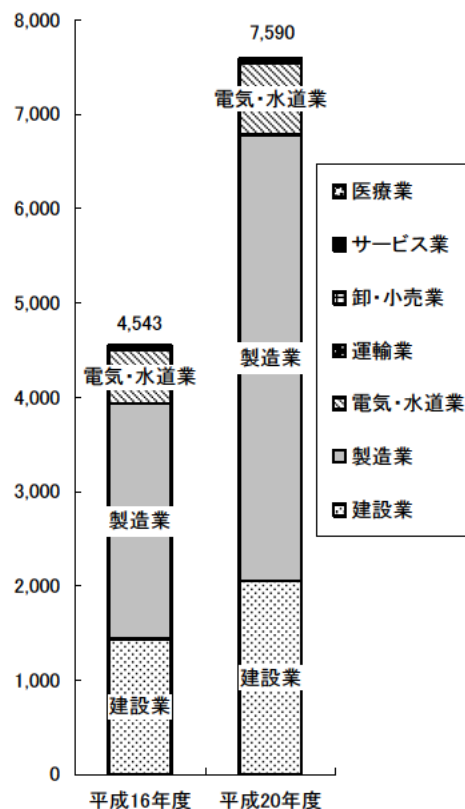


図3-1-3 業種別の発生量・排出量の比較

2 処理状況の比較

発生量に対する各処理量の割合を前回調査と比較すると表3-1-4のとおりである。

処理については、最終処分量が大きく増加している。

表3-1-4 処理状況の比較

(千t/年)	発生量		排出量		減量化量		資源化量		最終処分量	
平成16年度	4,543	(100.0%)	4,320	(95.1%)	2,437	(53.6%)	1,923	(42.3%)	168	(3.7%)
平成20年度	7,590	(100.0%)	7,014	(92.4%)	3,958	(52.1%)	3,250	(42.8%)	382	(5.0%)
増減(率)	3,047	(67.1%)	2,694	(62.4%)	1,521	(62.4%)	1,327	(69.0%)	214	(127.2%)

第2節 排出状況の将来見込み

排出量の将来予測は、次の考え方で行った。

産業廃棄物の排出原単位が、将来に渡り一定であると仮定して、各種活動量指標を将来推計し、推計した活動量指標に平成20年度の原単位を乗じて排出量を予測した。

排出量全体で見ると、平成20年度が7,014千tに対し、平成30年度で6,942千tとほぼ横ばいであることが見込まれる。

業種別にみると、建設業、電気・水道業に関しては将来に向けて増加傾向であるが、建設業に関しては減少傾向にある。（図3-2-1）

(千t/年)	H20	H25	H30
建設業	2,034	1,792	1,552
製造業	4,171	4,287	4,352
電気・水道業	760	899	993
その他	49	47	45
排出量計	7,014	7,025	6,942

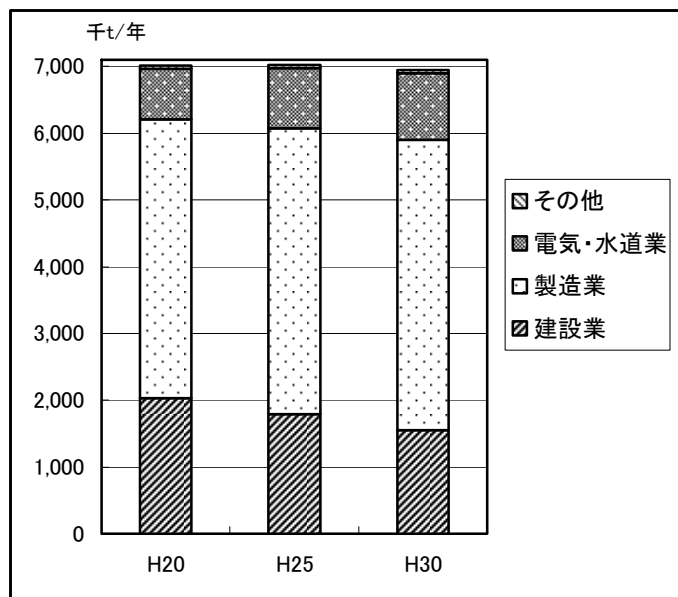


図3-2-1 業種別排出量の将来見込み

(千t/年)	H20	H25	H30
汚泥	3,753	3,953	4,073
がれき類	1,698	1,499	1,302
廃プラスチック類	133	134	133
ガラスくず等	464	471	476
廃油	120	123	123
動植物性残さ	27	27	28
廃アルカリ	225	229	232
鉱さい	117	127	129
その他	476	462	447
排出量計	7,014	7,025	6,942

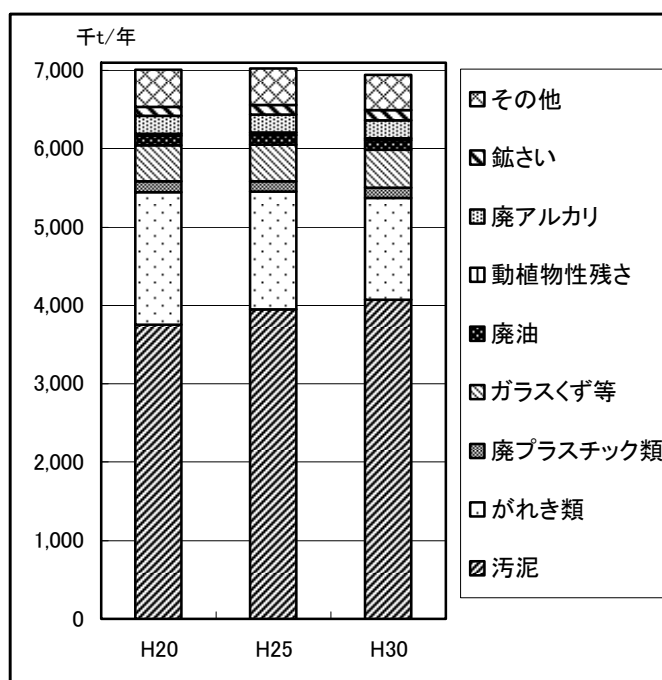


図3-2-2 種類別排出量の将来見込み

発生量に対する各処理量見込みの割合をみると表3-2-3のとおりである。

資源化量に関しては、産業廃棄物の排出及び処理状況等調査（環境省）の過年度のデータより、将来の発生量に対する資源化量の割合を推計し、その伸び率を推計した三重県の各年度の排出量に掛け合わせて算出した。

最終処分量に関しては、埋立処分をせざるを得ない無機性汚泥が多いという本県の状況から、無機性汚泥の量は平成20年度から一定であるとして、それ以外の廃棄物は資源化量と同様に推計した。

資源化量は増加する見込みであり、一方最終処分量は減少していく見込みである。

表3-2-3 処理状況の将来見込み

	発生量		排出量		資源化量		最終処分量	
平成20年度	7,590	(100.0%)	7,014	(92.4%)	3,250	(42.8%)	382	(5.0%)
平成25年度	7,613	(100.0%)	7,025	(92.3%)	3,323	(43.6%)	333	(4.4%)
平成30年度	7,538	(100.0%)	6,942	(92.1%)	3,383	(44.9%)	294	(3.9%)